

令和4年度 南国市立大湊小学校 学校評価書

学校教育目標		人間性豊かにたくましく生きる大湊の子の育成		研究主題	「表現力の向上をめざして」～言語活動の充実を重視した授業づくり～		
大項目	中項目	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
学力向上	(1)規範意識の育成	①大湊シートの「ルール」や「きまり」についての項目で、肯定的評価85%以上。 ②保護者「学校評価アンケート」の「社会のルールやきまりを守る指導」の項目で肯定的評価90%以上。	①「ルール」や「きまり」に関する肯定的評価は、一学期91.2%、二学期86.9%と評価指数を達成できた。特に、集会などで人の話を聞くことやチャイムを守るなどが良くてきている。 ②保護者アンケートの肯定的評価は100%で、評価指数を達成できている。ろうかを歩くことや身の回りの整頓に課題があるので、今後の指導の重点としていきたい。	A	大半の児童は、ルールやきまりを守る意識が育ち、行動が伴っているが、登下校のルールを十分に守れていない児童もいる。今後も家庭・地域と連携を深め、児童の安全を保障すると共に、児童のきまりを守る意識の向上を図っていききたい。また、特別に支援を要する児童や厳しい環境にある児童も在籍しており、関係機関等と連携して児童の支援や規範意識の醸成を図っていききたい。	〇ルールや決まりについての項目は全体で約90%と良好である。これからも児童の規範意識の向上に向け、取り組んでほしい。特に、集会などの聞き方は100%であり、規範意識の育成ができてきている。机、ロッカーなどの整理整頓については、約75%であり児童のできているところや良いところを認めながら適切な指導を行ってほしい。保護者の回答は100%で評価が高い。	
	(2)授業改善	1. Q-Uアンケートの「学習意欲」について、次の項目で肯定的評価90%以上。 ①難しい問題もすぐにあきらめないでいろいろと考えてみる。 ②授業の時に自分の意見を発表するのは好き。 ③勉強がもっとできるようになろうと頑張っている。	①「難しい問題もすぐにあきらめないでいろいろと考えてみる」の肯定的評価は、一学期96.2%、二学期100%と評価指数を達成できた。②「授業の時に自分の意見を発表するのは好き」の肯定的評価は、一学期76.9%、二学期73.1%で評価指数を達成できておらず、学習意欲を高める授業づくり・人間関係づくりに課題が残った。③「勉強がもっとできるようになろうと頑張っている」の肯定的評価は、一学期96.2%、12月期96.2%で目標指数を達成できている。全体的には89.7%と概ね達成しているが、個別最適な学びと協働的な学びの研究を深める必要性を感じた。	B	中学校ブロック共通の学びを深める授業改善の視点として「振り返りの充実」を掲げ、「振り返り」の視点を各教室に掲示して取り組んできたが、各教科の基礎的・基本的な語句を正しく使って表現することに課題が見られた。複式授業のスタンダードを確立させながら、児童が主体的に協働的な活動に臨まれるよう、個に応じた支援の充実を図っていききたい。	〇勉強が分かる項目では約90%と高く、授業に対して学習内容を理解しようとしていることが分かる。意見の発表は約75%であり、学習課題を共通理解し、話し合いながら目標を達成できた時には、褒めて自信を持たせるような授業展開をお願いしたい。保護者の回答は約96%であり、個々の児童に合わせた学習展開が図られている。	
	(3)家庭学習	①帯タイムや放課後加力指導の継続。 ②生活習慣しらすべ、年間5回以上実施。 ③保護者アンケートの家庭学習に関する肯定的評価75%以上。	①放課後学習支援員や地域学校協働本部事業の学習支援員の協力を得て、個に応じた加力指導を行うことができた。 ②生活習慣しらすべを年間5回実施し、生活リズムの大切さを児童・保護者に啓発する大切な機会となっているが、早寝の項目の課題が克服できていない。 ③保護者アンケートの家庭学習についての肯定的評価は81.8%で、昨年から10ポイント上昇しているが、個別的に課題が見られる児童がいる。	A	帯タイムや放課後加力指導は、教職員の配置に応じて可能な形で実施してきたが、学習への意欲付けや主体的な家庭学習の実施には結びついていない。今後、学びへの意欲付けや個に応じた課題設定、自主学習の推奨等により、家庭学習の質的向上を図っていききたい。また、早寝を妨げている家庭でのメディア利用について、家庭との連携を図ると共にメディアリテラシーを身に付けさせ、課題改善を図っていききたい。	〇帯タイム学習や放課後加力指導は学習したことを定着させることができ、また家庭学習へ繋がると思うので今後も継続してほしい。生活習慣しらすべは児童が自分の生活を振り返ることができ、充実した活動ができるよう取り組んでもらいたい。保護者の回答は約82%と昨年度より高くなってきている。今後も家庭と連携を取り成果を上げていくことが大切である。	
	(4)英語教育の推進	1. 「英語科」アンケートで肯定的評価85%以上。 ①英語がすき。 ②英語は大切だと思う。 ③英語を使って外国の人と話してみたい。 ④将来英語を使う仕事してみたい。 ⑤英語を使って、自分たちの地域や日本の文化を外国の人に紹介してみたい。	①「英語がすき」の肯定的評価は、100%。②「英語は大切だ」の肯定的評価100%。 ③「英語を使って外国の人と話してみたい」の肯定的評価は100%。⑤「英語を使って、自分たちの地域や日本の文化を外国の人に紹介してみたい。」の肯定的評価は100%。評価指数を達成できた。ただ、④「将来英語を使う仕事してみたい。」の肯定的評価は60%で、大きな落ち込みが見られる。	B	昨年度より、各項目とも大きく改善しており、英語に対する意欲関心の高まりがみられた。しかし、将来英語を使う仕事してみたいかとの問いに対して、否定的な意見を持つ児童が4割おり、英語と日常生活のつながりを十分実感できていない課題がある。今後、キャリア教育の視点で、英語と日常生活の密接な関係性について感じられるよう取組を充実させていききたい。	〇英語が好き、英語は大切だ、など児童の肯定的評価は100%と高く、英語教育に対する成果が出ている。将来英語を使う仕事してみたいについては約60%と低いが、キャリア教育と合わせて、英語を取り入れた学校行事や外国の人々と交流する機会を取り入れ、興味関心を高めながら、中学校へつなげていくことが大切だと思う。	
生徒指導	(1)道徳教育の推進	1. 大湊シートの「あいさつ」「掃除」について、次の項目で肯定的評価90%以上。 ①自分からあいさつをしている。 ②掃除をまじめにしている。 ③「教室」や「ろうか」などにゴミが落ちていたらひろうようにしている。	①「自分からあいさつをしている」の肯定的評価は、一学期92.0%、二学期96.2%、②「掃除をまじめにしている」の肯定的評価、一学期96.0%、二学期100%で目標指数を達成できた。③「ゴミをひろう」の項目は一学期84.01%、二学期92.3%と改善してきている。道徳性の項目の全体は95.4%と目標を達成しており、道徳的価値観の醸成は図られていると考える。場に適したあいさつの実践には課題がみられ、継続した学習・指導が必要である。	A	「あいさつ」「掃除」に関しては、道徳的価値観の醸成のための基本的な取組として今後も継続していく。特に、学級会や集会、代表委員会等での評価活動を大切に、主体的に実践しようとする態度を身に付けさせていききたい。また、「ゴミが落ちていたら積極的にひろう」ことができる児童の育成のため、日常的に教室・学校の環境美化を図っていききたい。	〇挨拶、掃除の項目では、目標の90%を上回っており、児童の日々の取り組みが評価できる。特に、掃除については2学期100%となっており、教員の指導の成果が表れている。また、ごみが落ちていたら拾うことも8ポイント上っており、今後も自主的な行動を褒めながら、全校児童の意識をさらに高めていってほしい。	
	(2)いじめ・不登校・問題行動等への対応	1. 学校生活アンケートの「いじめ」について、次の項目で肯定的評価90%以上。 ①学級・学校で、まわりの人から嫌なことをされていない。 ②学級・学校で、まわりの人から嫌なことをされている人はいない。 2. 保護者「学校評価アンケート」の「いじめのない学校づくり」の項目で肯定的評価90%以上。 3. いじめ防止対策委員会を定例(月一回)・事案発生毎に開催。	1. 「学級・学校で、まわりの人から嫌なことをされていない。」の肯定的評価は一学期89.9%、二学期85.6%。②「学級・学校で、まわりの人から嫌なことをされている人はいない。」の肯定的評価は一学期92.3%、二学期84.6%。成果指数には届いていない。 2. 保護者アンケートの「いじめのない学校づくり」の項目の肯定的評価は100%。児童の些細な変化や関係を見逃さず、いじめ予防的な対応を心掛け、取組んできた成果と考える。 3. いじめ防止対策委員会は、月ごとの定例会以外にも、トラブルが起こった際には必ず開催し、全教職員での情報共有を徹底している。	B	いじめは決して許される行為ではない。学校いじめ防止基本方針のもと、いじめを未然に防止するため、児童の些細な変化を見逃さず、児童との対話やカウンセリング活動を行う。いじめられている児童は最後まで守り抜き、いじめをしている児童にはその行為を許さず、毅然とした対応・指導を行う。また、他の児童に対してはいじめを認識しながらこれを放置することがないよう指導する。そして学校全体にいじめを許容しない雰囲気醸成し、いじめの無い学校づくりを推進していく。また、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、全教職員での情報共有と、組織的対応を行う。	〇いじめについての肯定的評価は1学期と比べ2学期は少し低くなっており、今後もいじめ対策委員会の充実に取り組んでほしい。保護者の回答は100%と高く、学校の取り組みを評価している。日々の取り組みの中で、児童の良さを引き出しながら、学校・学級全体で友だちを認め合う活動が継続してほしい。	
	(3)自尊感情の育成	1. 大湊シートの「自尊感情」について、次の項目で肯定的評価70%以上。 ①自分にはいいところがある。 ②自分のことがすきだ。 ③やりはじめたら最後まで頑張ることができる。	①「自分にはいいところがある。」の項目は、一学期84.4%、二学期80.8%。②「自分のことが好き」の項目は、一学期68.0%、二学期69.2%。③「やりはじめたら最後まで頑張ることができる」の項目は、一学期88.0%、二学期92.3%。全体的には86.2%と、評価指数は達成できている。集会・仲間づくり委員会を中心とした「Good jobの木」の認め合いの取組等の成果と考える。まだまだ自己肯定感の低い児童が複数おり、認められ感を高める取組の充実を図る必要がある。	B	場に応じて適切な表現で自分の気持ちや考えを伝えることが苦手な児童が自尊感情が低い傾向にあるため、個に応じたソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学習活動を充実させたり、互いに評価し合う場を充実させたりして、自己肯定感の醸成を図っていききたい。また、児童の自主的な企画で、月一回程度全校集団遊びを行う等、仲間づくりの取組を継続的に行っていききたい。	〇友だちの言うことはよくわかる項目は100%、項目の全体の平均は約82%であり、目標の70%を上回っている。自分のことが好きだの項目が全体からみるとやや低いことから、学校・学級全体で友だちの良さを認め合い、自己有用感を高める取り組みを行ってほしい。	
	(4)人間関係づくり推進(児童・児童と教師)	1. Q-Uアンケートで学級満足群の児童60%以上。要支援群の児童数0人。 2. 学校生活アンケートについて、次の項目で肯定的評価90%以上。 ①学校が楽しい。 ②みんなで何かをするのは楽しい。 ③勉強が分かる。 ④学校の先生は話を聞いてくれる。	1. Q-Uアンケート「学級満足群」の児童の割合は一学期65.4%、二学期69.2%。「要支援群」は一学期1名、二学期0名。SCIによる全児童面談を行い、予防的カウンセリングを行っている。 2. ①「学校が楽しい」一学期100%、12月期96.2%。 ②「みんなで何かをするのは楽しい」一学期100%、二学期100%。 ③「勉強が分かる」一学期92.3%、二学期88.5%。(2学期末の魅力事業アンケートでは96.1%) ④「学校の先生は話を聞いてくれる」一学期100%、二学期100%。学習集団・仲間づくりの取組を継続してきた成果と考える。	B	日々の学級での児童の様子や気持ちメーター、Q-Uや学校生活アンケート等から総合的に児童の様子を判断し、必要に応じて担任やSCの個人面談を実施していく。教員との人間関係で大きな要因となるのが「分かる授業づくり」であり、この項目では学校生活アンケートの児童の二学期の結果は、成果指数を下回っており、学級経営の要となる授業づくりにおいて、生徒指導の三機能を生かしながら、教員との人間関係づくりを充実させていききたい。	〇みんなで何かをするのは楽しい、学校の先生は話を聞いてくれる項目では100%と高く、教員との信頼関係のうえに児童を中心とした仲間づくりが図られている。学級で困っている友だちがいれば優しく話を聞いてあげる項目では約81%であり、やや低い。学校生活全般で児童の肯定的評価を行い、仲間づくりを充実させるとともに、児童理解を深める研修等を実施して行くことも大切である。	
家庭・地域・学校の連携	(1)保幼小連携の推進	①支援引継ぎシート等を通して、配慮の必要な児童の確実な引継ぎ100%。	①校区に保育所が無くなり、保育・幼稚園等との児童交流は限定された行事のみとなったが、教職員の交流や研修、支援引継ぎシートをもとにした新入児の引継ぎはできている。	A	支援引継ぎシート等を通して、配慮の必要な児童の確実な引継ぎを行うと共に、中学校ブロックの保幼小中教職員研修を継続し、情報共有を図っていく。	〇保幼小中の連携を深め、円滑な移行ができるよう今後も取り組みを進めてもらいたい。支援引継ぎシートの活用を行い、配慮の必要な児童生徒の支援に役立て充実した学校生活ができるよう取り組むことが大切である。また、保幼小中の交流・研修を行い、それぞれの実践や課題を共有することも必要である。	
	(2)防災教育の推進	①「学校評価アンケート」の防災に関する項目で、児童・保護者の肯定的評価90%以上。	①学校評価アンケートの防災に関する項目で、児童の肯定的評価は、一学期99.2%、二学期100%。保護者の肯定的評価100%。家庭・地域と連携した防災教育の推進と情報発信の成果と考える。	A	場に応じた安全確保の行動が取れるよう、多様な場面を想定した防災避難訓練を実施し、安全教育の充実を図っていく。また、保護者・地域への啓発活動は継続して行う。	〇児童・保護者とも防災教育に対して100%の肯定的評価であり、防災に対する意識が高い。30年以内に70%の割合で起こるとされている南海トラフ地震に備え、地域ぐるみの避難訓練や防災教育の充実にも努めてもらいたい。	
	(3)地域との連携	①学校運営協議会、学校支援委員会の年2回開催(授業参観及びアンケートをもとにした協議・懇談)の実施。 ②大湊防災連合会と共催した地域ぐるみ防災避難訓練の実施。	①コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会・学校支援委員会を年2回開催し、協議・懇談を実施することができた。 ②大湊防災連合会・消防分団等と連携した地域ぐるみ防災避難訓練を実施することができた。学校評価アンケート地域連携の項目の肯定的評価100%。	A	コロナ禍で地域行事が中止となったり、学校行事の参加体制が縮小されたり、地域と連携した取組や情報共有の場は縮小された。大湊の未来に繋がる地域連携を模索し、地域で育つ「みなとっ子」の取組を充実させていききたい。	〇学校支援委員会・学校運営協議会の開催ができ、学校と地域との連携ができていくが、コロナ禍で学校行事の参観縮小や地域行事が中止となり、児童との実際の交流ができなくなっている。今後も地域ぐるみで学校教育活動が充実するよう見守り活動等取り組みたい。また、コロナ後の新しい地域連携を模索し、連携を深めていただきたい。	
	(4)学校からの情報発信の充実	①学校だよりの充実と、月一回以上の配付。 ②「学校評価アンケート」の情報発信に関する項目で、肯定的評価90%以上。	①月一回以上の学校だよりのホームページの更新、定期的な学級だよりを配付し、児童の様子や学校の取組を発信することができた。 ②学校評価アンケートの情報発信に関する項目の肯定的評価は100%で、評価指数は達成できた。	A	今後とも月一回以上の学校だよりのホームページ、学級だよりに、児童の様子や学校の取組を継続して情報発信していき、学校運営について家庭・地域と情報共有を図っていききたい。	〇学校からの情報発信について保護者の回答は100%と高く、学校・家庭・地域を繋ぐ大切な役割を果たしている。児童の元気な活動を毎回学校だよりに載せており、今後も内容の充実を図ってほしい。	

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を達成できなかった)

学校関係者評価を踏まえての改善点
 1 ①規範意識・自尊感情・学習意欲の向上の為、肯定的評価を行う。②協働的な学習と個別最適な学習の場を設定し、活用の中で基礎基本の定着を図る。③授業とリンクした課題を設定する。④キャリアの視点に立った英語教育を行い、日常に活かす。
 2 ①いじめ・不登校・問題行動の未然防止に向け、全校で自己有用感を高める仲間づくりの取組を充実させる。②SC・SSW等との連携を深め、見守り・支援体制を強化する。③日々の小さな変化を見逃さない見守りの強化を図る。
 3 ①中学校ブロックでの保幼小中の連携した研修や協議会を実施する。②南海トラフ地震を想定した、危機管理能力を高める研修・訓練を充実させる。③防災・見守り・地域学習を軸に地域連携を図る。 ④通信やHPIによる情報発信の更なる充実と工夫を行う。学校と家庭との双方向での情報共有を行う。